

令和3年度学校評価報告書（全日制）

令和4年3月30日

教育委員会教育長 様

室蘭栄高等学校長

次のとおり令和3年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> 1 主体的に学ぶ姿勢を育み、コミュニケーション能力を向上させる学習指導の充実強化に努める。 2 基本的な生活習慣を確立し、自ら律する態度や他を思いやる心を育む指導の充実に努める。 3 進路意識の高揚と将来の望ましい自己実現を可能とする能力の伸長に努める。 4 心身ともに健全で充実した学校生活を目指す健康・安全指導の充実強化に努める。 5 ワークライフバランスを踏まえた教育活動の推進及び明るく事故のない職場環境の構築に努める。
--

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
1 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の実施にかかる時間割の編成や諸行事等の配置を行ったが、一層の改善に向けて、その効果を検証する必要がある。 ・次年度から運用するシラバスの作成、観点別評価の設定や「1人1台端末」にかかる研修を行ったが、実施とともに生じる課題の改善・解消が必要である。 	<p>○取組は極めて十分である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の実施に向け、グループワークの試行や観点別評価の準備が行われているが、効果的なものとなるよう、不断の改善を継続してほしい。 ・「1人1台端末」活用に向けて機材の準備や研修は実施されているが、活用にとともう効果検証の方法も検討してほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部が中心となって、主体性等の育成例及び ICT の活用法に係る情報、新教育課程に係る課題等を収集・共有する。教職員は、効果的な指導方法等の改善に協働的に取り組み自己研修を深める。 	
2 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・協働性やコミュニケーション力等の育成の観点から、コロナ禍の制限を受けながらも、学校祭や体育大会等を実施できた。引き続き、安全安心な企画立案とその実施に取り組む。 ・SNS やスマートフォンの使用に係るトラブルはなかったが、校内無線 LAN が使用可能となったことから、スマートフォンの不必要な使用が散見されるようになった。ICT の主体的・自律的な使用に係る指導に努める。 	<p>○取組は概ね十分である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の制限の中、可能な取組方法を模索し、生徒による主体的な工夫も盛り込んだ生徒会行事や代替活動が展開されている。今後も、感染状況を踏まえた対応を期待したい。 ・スマートフォン等の ICT は、もはや生徒にとって文房具の1つである。授業や学習を深化させ生徒の活動を創造的に拡張する、生産的な道具となるように、実践的な指導を一層お願いしたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事については、生徒指導部と保健部とが中心となって、過去の 	

	<p>実施例にとらわれずに、生徒とともに工夫を凝らし、本校生らしい表現方法で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS やインターネットの適切な使用に係る指導はもとより、生徒指導部と教務部が中心となり、生徒が多様な意見や見方を共有したり、協働的にものを創作したりする新たな機会を設けられないかを検討する。 	
3 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路学年協議会において、進路指導部と学年団が指導の流れを共有することにより、指導の一貫性を確保し、組織的に活動することができた。 ・ 模擬試験分析会において課題を学年団と教科担任とが共有し、効果的な指導を展開することができた。 	<p>○取組は極めて十分である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 組織的な進路指導体制の確立により、進路ニーズに応じた進路実績を維持できているが、2024 年大学入試に向けて、情報収集を続け、大学や社会が求める学生像・人物像を念頭に指導内容の充実をお願いしたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2024 年大学入試について、大学入試センターや各大学等が発信する、特に学校推薦型選抜や総合型選抜に関する情報を収集し、多様な選抜方法に対応した教職員の進路指導手法や生徒の進路学習を模索したい。 	
4 健康安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT による定期的なアンケート式チェック活動等を通して、生徒が主体的に感染拡大防止の行動をとるよう促し、校内における感染リスクの低減に努めた。 ・ 感染症対策を施した上で、毎日の清掃活動・厚生委員会の活動を継続した。火災や津波に関する最新の知見に基づき、本校の立地上の特性を踏まえた避難訓練を実施した。 	<p>○取組は極めて十分である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一層意識化を図り、主体的な行動をとることができるよう工夫がなされている。現実課題に学びの種を見つけ現実に知的に対応する指導をお願いしたい。 ・ 知行合一が図られている。地震や大雨・強風等の多様な自然災害が頻発している。いつ・どこにいても、命を守ることができる実践的な訓練をお願いしたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が自らの情報端末機器を活用し、自己の心身の状況や行動の特性を主体的に把握して自己の健康を維持できるよう、保健部が中心となって啓蒙活動に取り組む。 ・ 理科系課題研究における取組も援用し、最新の防災情報のとり方や危機回避に係る判断のし方を生徒・教職員において共有し、防災委員会が中心となって実践的な訓練を実施する。 	
5 組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 間口減に伴い、分掌再編小委員会を編成し、効果的で効率的な活動となるよう、校内組織に係る見直しに着手し、継続的に検討することとした。 ・ 1人1人の教職員がより効果的に活動するために、職員会議における議題の整理や ICT 活用等について業務改善を継続した。 	<p>○取組は概ね十分である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員が出席し限られた時間の中で運営される職員会議において、何を大事にするのかを明確にすることが大切であると考える。 ・ 校務においても ICT 化は必須と思われる。学校特有のワークフローに対応した活用を期待する。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内には、様々な情報共有等のための会議・打合せ等がある。分掌と分掌、分掌と学年団、分掌と係等、関係者における日常的な相談・協議により調整を行えうる事案もあれば、その調整案を全体で協議・確認を必要とする事案もある。案件に応じて、働き方改革の観点にも立ち、議題の扱い方を検討する等して効果的な対応を検討したい。 	

6 研 修	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用、教育相談体制、保健器具活用等の喫緊の知見・技能について、職員会議や対象者向け校内研修を実施し、一定の共有を見たが、一層の充実を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○取組は極めて十分である。 働き方改革に配慮した運営である。時代は大きく変化している。21世紀における学び方や心身の健康維持について、保護者・教職員が一同に会する研修実施について検討をお願いしたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 共有すべき話題や技能は多様にあるものの、関連する知見やスキル、興味関心には個人差があり、一律集合型研修は効率的ではない側面があることから、対象者毎に熟達者や所管分掌による複数回の実践的な伝達研修会の実施に加え、同僚間の日常的な教え合いを促す。 	
7 保護者・地域住民との連携	<ul style="list-style-type: none"> 今年度もコロナ禍のため、可能な範囲で活動を継続し、今年度もPTA会報を発行することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○取組は概ね十分である。 間口減によって、本校単独では実施が困難なものも発生するのではないか。校外組織の催事等の活用も視野に入れて検討してはどうか。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> PTA等の意見も踏まえて、コロナ禍において実施可能な連携・協力等を模索する。地域住民との連携すべき内容や方法については、ゼロ・ベースで検討を続ける。 	
8 施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> 各所管による日常的な点検及び情報共有により、可能なものから、事務担当者の裁量により随時整備を進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○取組は極めて十分である。 コロナ対策だけでなく、老朽化した施設の修繕や最新機材の設置・整備等についても、校内の状況や時代のニーズに応じた取組が行われている。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 施設や機材の整備は、現時点で円滑に使用できる水準に達したが、いずれの設備・機材も故障や不調等は付きものであり、引き続き、日常的な維持・管理の徹底に努めたい。 	
9 その他	<ul style="list-style-type: none"> 生徒及び保護者アンケートの回答率や回答内容の傾向に若干の変化が見られた。回答方法を紙からデジタルに変更したことによるのか、分析を試みている。 臨時休校のお知らせ等の保護者向け緊急連絡は一斉メールで伝達しているが、着信精度に難があったり、個々の学級や部活動等の小集団へ連絡できなかつたり等、容易には改善できない課題が浮上した。 	<ul style="list-style-type: none"> テクノロジーの活用は、便利さをもたらす反面、あらたな課題を生じうるが、生徒及び保護者の意向を把握したり連絡したりするには有用なツールであり、もはや特別なものではないことから、根気よく対応し、教育活動に対する満足度を高めてほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化によって記述式回答への回答率が高まり、様々な状況を把握できた。更なる改善策を総合的に検討する。 一斉メールについては、さらに的確に個々の学級や部活動等の小集団へ緊急連絡を送信できるように、別のアプリケーションへ入れ替える。 	
公表の方法	<ul style="list-style-type: none"> 学校ウェブページ上での公開 PTA総会及び保護者懇談会等での説明 	